平成２７年１２月１４日（月）　　京都市立洛風中学校　Ｎｏ．９

洛風だより・ほかほか通信
～保護者のみなさまへ～

晩秋から冬の季節の中で～中学生の心～

１１月の「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い～」では、「中学生の困りごと～晩秋から冬の季節の中で～」をテーマにカウンセラーからお話ししていただきました。３年生は、やはりこの時期は「受験」「受験勉強のプレッシャー」から逃れられません。「勉強しなければ」「勉強がわからない」「思うように点数が上がらない」、こころの中は、ウツウツとしています。学校選びに迷っている子もいます。こんな時期にゲームをしていたり、現実逃避に走ることもあります。そんな時に、家の人からたびたび受験の話をされたり、むやみに励ましたりすることはかえって追いつめることにもなります。ここは辛抱です。そっと温かなミルクくらいを用意してみるのが、いいのかもしれませんね。

冬は、耐える季節でもあります

晩秋から冬にかけて、日が短くなり、夜が長く、自然界も冬支度をしていきます。気分的にもウツウツとして、身体も冷えて固くなりがちです。春に備えて「耐える力を養う季節」です。一方で、クリスマスや年末年始の準備など家族の一員としての自分を自覚できる機会も体験できます。特にお正月は、改まった気持ちで、親戚や知人と交流をすることにより、少し大人に近づいた気持ちにもなれます。

大人もいろいろと気忙しい気分になっていますが、子どもと一緒に何か楽しみを見つけて過ごすことで、子どもの「耐える力」「我慢力」も増す冬休みになるのではないでしょうか。それぞれの家族のスタイルがあると思いますが、せっかくの機会ですので、一年の節目となる、季節感を共に味わうことができればよいですね。

「シロアリ」って、実はすごい！？

先日の科学センター学習で、シロアリの観察で「なるほどなぁ～」と感心させられました。シロアリと検索すれば「駆除」と出てくるように、あまり良いイメージはありませんね。しかし、森林の中では、大活躍しています。倒木や枯葉を分解、掃除してくれています。

では、どうしてシロアリは、木材を消化できるのでしょうか？その秘密が、科学センター学習でわかりました。シロアリを解剖し腸の中を顕微鏡で見てみると小さな原生生物が見られます。その小さな小さな生物が、木材の消化を助けてくれています。目には見えない世界で、すごい自然の営みが起こっています。ふだんは、目に見える世界をすべてと思いがちですが、ミクロの世界、マクロの世界と見方を変えて、日常の風景に眼差しを向けることも必要ですね。

こんな詩を見つけました…「ななめの想像力」

「まっすぐに生きられないなら/ゆがまずに　ななめに生きよう/上も前も見れないならば/首をひねって考えよう/世間の基準に合わなくても/きっと　どこかを　認めてくれる/誰もかも　自分ですらも/認められない自分だけれど/せめて捨てずに連れていこう/己の知りうるすべてを連れて」（詩集里地荒平の世界より「まっすぐに生きられないなら」）

京都新聞夕刊「現代の言葉」に紹介されていた、ある生きづらさを抱える人の詩です。その記事には、こうも記されていました。

「ななめ」は他者だ。他者の目から見ようとしない「まっすぐ」は、いつしかゆがむ。見えないふりを続けていると、本当に見えなくなる。人間は、想像するから人間だという。「まっすぐ」な道だけではなく、少し首を傾ければ、すぐ隣には「ななめ」の道もある。この道、しかない世界は寂しくて息苦しい。

お互いの「ななめ」を思いやる「想像力」が優しさかもしれません。

次回「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い～」は**１月２７日（水）**です